



【写真左から】(上段)伴教育長、萩谷副村長(下段)廣瀬さん、山田村長、茂木さん



## 郷土の自然・歴史の調査等に尽力 文化財保護に尽力されたお二人に特別功労賞を授与

7月23日、「東海村歴史と未来の交流館開館記念式典」の中で、廣瀬誠さん(元東海村の自然調査団団長)と茂木雅博さん(元東海村文化財保護審議会委員)に、特別功労賞が授与されました。これは、村政の発展に尽力し、その功労が認められた方に贈られるもの。廣瀬さんは、本村の自然環境の専門調査や人材育成に長年貢献したこと等が、茂木さんは長年にわたり村内の遺跡の発掘調査を行い、調査成果の報告等を通し、村の文化財保護・活用の基礎を築いたこと等が認められ今回の受賞に至りました。



## イクボスが増えれば、社会が変わる! 役場の管理職を対象にイクボス研修会を実施

「イクボス」とは、職場で共に働く部下やスタッフの「ワーク・ライフ・バランス」を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績や結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司のことです。村では、7月28日、イクボスの輪を広げるため、管理職を対象とした研修を実施。イクボスが求められる社会背景やテレワークなど多様な働き方の必要性、部下とのコミュニケーションの取り方などを学びました。研修の最後には、参加した職員全員が「イクボス宣言書」にサインをし、決意を新たにする姿が見られました。



森田さんは現在、高校三年生。「この貴重な経験を生かし、夢に向かって挑戦してほしい」と村長からエールが送られました。

## 村民の皆さんにトーチの重みを感じてもらいたい 東京2020オリンピック聖火ランナーが村長を表敬訪問

8月6日、「東京2020オリンピック聖火リレー」で、聖火ランナーとして日立市内を走行した森田遥香さん(村松)が、村長へ報告に訪れました。森田さんは、産婦人科・小児科医になる将来の夢や、地域医療の発展について書いた作文が選考委員の目にとまり、聖火ランナーに選出。“聖火トーチを子どもたちや、村民の皆さんに触れてもらう機会をつくれたら”という希望から、今回の表敬訪問に至りました。訪問を受け、村長は「とてもありがたいし、村として誇らしい。子どもたちも喜ぶと思います」と話しました。



## 子どもたちに、よりよい環境を提供するために 石神小学校でボランティア塗装を実施

8月21日、石神小学校で、一般社団法人日本住宅塗装協会の皆さんが、校舎等のボランティア塗装を行いました。これは、同協会が塗装を通じた社会貢献と教育支援活動を目的に行っているもの。これまでに県内の小学校や幼稚園などで行ってきたボランティアによる塗装を、今回初めて村内の小学校で実施しました。同校の平間克司校長は「ボランティアの方々に対応していただき、大変ありがとうございます。きれいになった環境で心新たに、新学期に子どもたちを迎えたいと思います」と話しました。

【写真左から】塚原美光さん(東海村総合型地域スポーツクラブスマイル東海事務局長)、野本奈菜さん(茨城大学3年)、小滝丈慈さん(同大3年)、山田村長、柳由人さん(同大4年)、柴田真希さん(同大4年)、岡田裕昭さん(同クラブ理事長)



## 子どもたちにスポーツの楽しさを伝えるために 茨城大学生が学生指導者として活躍中!

8月12日、「東海村総合型地域スポーツクラブスマイル東海」の皆さんが、茨城大学生による活動協力について村長へ報告に訪れました。同クラブでは、村と茨城大学が自治体連携協定を結んでいることから、同大学の運動部の学生にジュニアスポーツ教室の指導者等として協力を得ています。比較的年齢の近いお兄さん・お姉さんから指導を受けることで、子どもたちがより積極的に取り組む姿が見られているとのこと。村長は「村のスポーツの発展に貢献していただいている。これからも続けてもらいたい」と話しました。

子どもたちへの指導の様子▼(①②ジュニア陸上教室  
③④ミニバスケットボール教室)



平成19年から実施しているこの取り組みには、これまで延べ200人を超える学生が参加しています。中には教員を目指している学生もあり、子どもたちへの接し方など、ここで学んだ経験を生かし教育実習等に臨み、その後、教員として活躍している方もいるそうです。



## 「保育」という おしごと

— 保育者からのメッセージ —

子どもたちの成長を間近で感じられる  
素晴らしい仕事です



保育者を目指している方や興味・関心を持っている方へ、メッセージを送りたいと思います。

保育者として働いている毎日には、一日一日が新鮮で、とても充実しています。それは、子どもたちの成長を感じることができるからだと思います。

「人見知りで無口だった子が園での生活を通してお友達ができ、自分から遊びに誘えるようになったとき」「野菜嫌いの子が、食べられるように努力しているとき」「運動会や発表会などの行事で、子どもたちが一丸となってやり切ったとき」——これらの姿を見たときに、保育者に

なっていて良かったと心から感じます。毎日の生活の中で子どもたちが成長する姿を間近で見られ、その喜びを共有できることは、この仕事ならではの魅力だと思います。

また、保護者の皆さんから「ありがとうございます」という言葉をいただいたとき、もっと頑張ろうという気持ちになります。子どもの成長を一番に感じているのは保護者です。「幼稚園で着替えをするようになった、今まで着替えに興味が無かったのに、自分で着替えるって言うようになったんです」「ご飯の前にはごあいさつをするんだよ」と言って、お当番のごあいさつをしてくれるんですよ。「友達を作るのが苦手だったのに、毎日友達の話をしてくれるんです。うれしくて」などと、子どもたちの成長について伝えられたとき、とてもやりがいを感じます。

保育というこの職業は、働く中で感動に出会う場面がたくさんあるだけでなく、毎日新しい発見ができる素晴らしい仕事です。保育者として一緒に働いてみませんか。皆さんとお仕事できる日を待っています。

舟石川幼稚園

岩倉すが子 主幹教諭